



日本一、中山道に身を染められる
「宿場町」を目指して

概要版

平成29年度～平成33年度

御嵩町観光基本計画
MITAKE TOURISM BASIC PLAN

平成29年3月策定

日本一、中山道に身を染められる「宿場町」

暮らしてよし、歩いてよし、休んでよし。

- 時代を超えて日本の古道の暮らしを体現できる町 -

施策: 1-2

観光戦略拠点
エリアの整備

施策: 1-1

特性を生かした
地区整備

施策: 2-2

新しい中山道
周遊の創出

施策: 2-4

広域観光
連携の推進

長く滞在して
暮らしや歴史文化を
深く体験

施策: 3-1

情報発信内容の
明確化

施策: 3-2

情報発信
手法の確立

施策: 2-1

中山道滞在
プログラム
の開発

メイン
ターゲット

外国人観光客
(欧米等)

施策: 2-3

複合的な交通網の
利活用

施策: 4-1

事業主体の
確立

施策: 4-2

事業検証・
推進体制の確立

サブ
ターゲット
周辺地域
住民

サブ
ターゲット

クリエイティブ
ワーカー

サブ
ターゲット

国内旅行者
(東海地方)

中山道
宿

1. 基本方針



歴史ある中山道が東西に横断する御嵩町は、御嶽宿・伏見宿などの歴史的資源や里山に残る昔ながらの集落など、日本の暮らしを残す地域資源がたくさん残っています。観光基本計画は、観光を御嵩町の「次世代に向けた成長産業」と「歴史文化を守り暮らしを豊かにする営み」として捉え、御嵩町のみらいをつくる「新しい観光のあり方」について策定したものです。

2. 計画年度

平成29年度(2017年度)から平成33年度(2021年度)までの5カ年計画

3. 現状と課題

御嵩町の現状

- 平成7年より人口が減少。今後も人口減少とともに高齢化、年少・生産人口の減少が進む。
- 産業別町内総生産の43%が製造業でサービス業は16%と低く、雇用やお金が町外へ流出。
- 一人当たりの町民所得は減少傾向。

御嵩町の 地域資源

- 名古屋から1時間程度の良好なアクセス。周辺市町に魅力的な観光地がある。
- 日本の代表的な古道である「中山道」とその宿場町の歴史・文化・空間が残る。
- 豊かな里山や鬼岩温泉、鬼岩公園などの観光資源がある。
- 町民の地域への愛情が強い。
- 歴史的建造物の空き家などが、活用可能な地域資源として残っている。
- すでに外国人観光客の高級ツアーが組まれ、市場価値が確認されている。

日本の 観光市場の状況

- 国内観光客数は減少傾向。外国人観光客数の伸び率が急増。今後の可能性が大きい。
- 外国人観光客は滞在日数も消費額も国内観光客より大きく、歴史体験に興味を持っている。

御嵩町の課題

- 人口が減少。
- 製造業に次ぐ、未来を作る新しい産業と歴史文化に基づいた暮らしの向上の必要性。
- 地域資源が分散しており、観光地としての魅力やストーリーが明確でない。特に中山道や御嶽宿などは、さらなる魅力創出が求められている。
- 若手人材(プレイヤー)の不足。
- 地域資源をつなぐ地域内交通手段の不足。
- 町民(特に若者)が町内で過ごすカフェなどの飲食店や交流の場所が不足。

4. 基本コンセプト

日本一、中山道に身を染められる「宿場町」

暮らしてよし、歩いてよし、休んでよし。

— 時代を超えて日本の古道の暮らしを体現できる町 —

東西に中山道が横断し、中山道とともに暮らしてきた御嵩町。

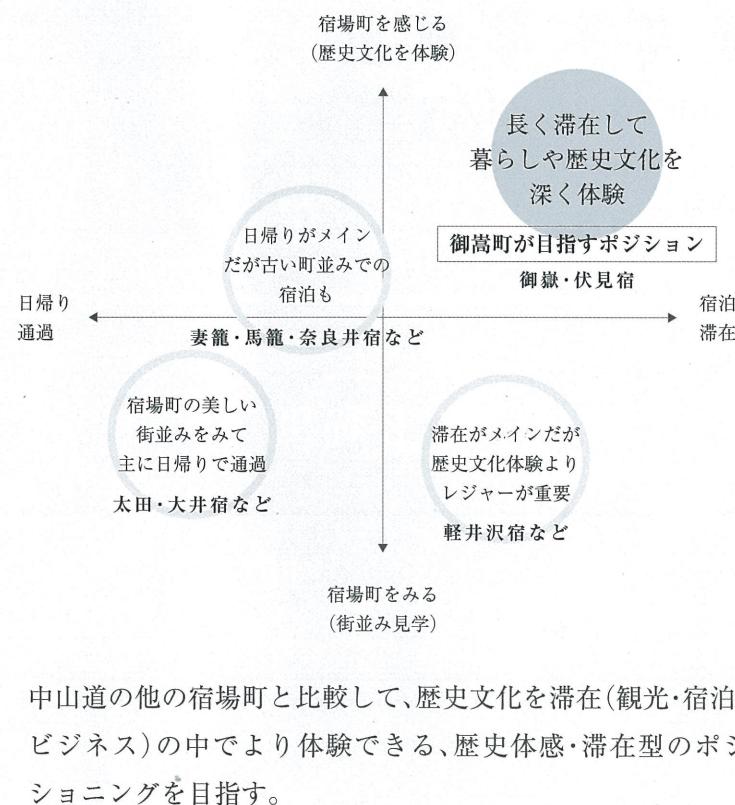
時代とともに変化しているが、その暮らしに脈々と残る中山道の歴史文化。

従来からの「観る観光」ではなく、「感じる観光」へ。

中山道の暮らしや歴史文化に身を染め、それらを知ることで未来を考える場となる。

それが御嵩町の目指す新しい観光の形です。

5. 観光地としての位置づけ / ポジショニング



6. 顧客ターゲット



外国人(欧米等)観光客

名古屋などから昇龍道周辺を観光する、日本の古道(中山道)や歴史文化に深く触れたいと考えている欧米等の外国人観光客(1~3泊程度)

1 国内(東海地方)観光客

歴史に触れたい東海地方からの日本人観光客(0~1泊程度)

2 クリエイティブワーカー

歴史ある町で働きたい在宅勤務可能なIT・デザイン系ワーカー

3 地域住民

歴史文化を守り、町の賑わいと豊かな生活を望む地域住民

7. 将来の目標設定 / 平成33年度時点

観光客数だけでなく、町内の経済・暮らしへの波及効果も目標とする

経済 / 新しい観光市場として既存からの増加分

- 顧客：歴史文化を楽しむ滞在型の高単価顧客
- 客数：年間合計 21,900人
宿泊客 年間10,950人(30人/日)
日帰客 年間10,950人(30人/日)
- 滞在：日帰り～3泊
- 単価：宿泊客 3万円/人(宿泊1.5万、飲食・体験1.5万)
日帰客 0.5万円/人(飲食・体験0.5万)
- 市場：約3.8億円/年

暮らし

- 観光が一つの産業として確立され、経済が活性化し雇用を創出する
- 御嵩町の歴史文化や町並みが守られ、町民が誇りを持って安心して暮らすことができる
目標：活用拠点施設1軒 / 空き家の改修5軒
- 町外からの移住者や事業者が増加

1. 基本方針



歴史ある中山道が東西に横断する御嵩町は、御嶽宿・伏見宿などの歴史的資源や里山に残る昔ながらの集落など、日本の暮らしを残す地域資源がたくさん残っています。観光基本計画は、観光を御嵩町の「次世代に向けた成長産業」と「歴史文化を守り暮らしを豊かにする営み」として捉え、御嵩町のみらいをつくる「新しい観光のあり方」について策定したものです。

2. 計画年度

平成29年度(2017年度)から平成33年度(2021年度)までの5カ年計画

3. 現状と課題

御嵩町の現状

- 平成7年より人口が減少。今後も人口減少とともに高齢化、年少・生産人口の減少が進む。
- 産業別町内総生産の43%が製造業でサービス業は16%と低く、雇用やお金が町外へ流出。
- 一人当たりの町民所得は減少傾向。

御嵩町の 地域資源

- 名古屋から1時間程度の良好なアクセス。周辺市町に魅力的な観光地がある。
- 日本の代表的な古道である「中山道」とその宿場町の歴史・文化・空間が残る。
- 豊かな里山や鬼岩温泉、鬼岩公園などの観光資源がある。
- 町民の地域への愛情が強い。
- 歴史的建造物の空き家などが、活用可能な地域資源として残っている。
- すでに外国人観光客の高級ツアーが組まれ、市場価値が確認されている。

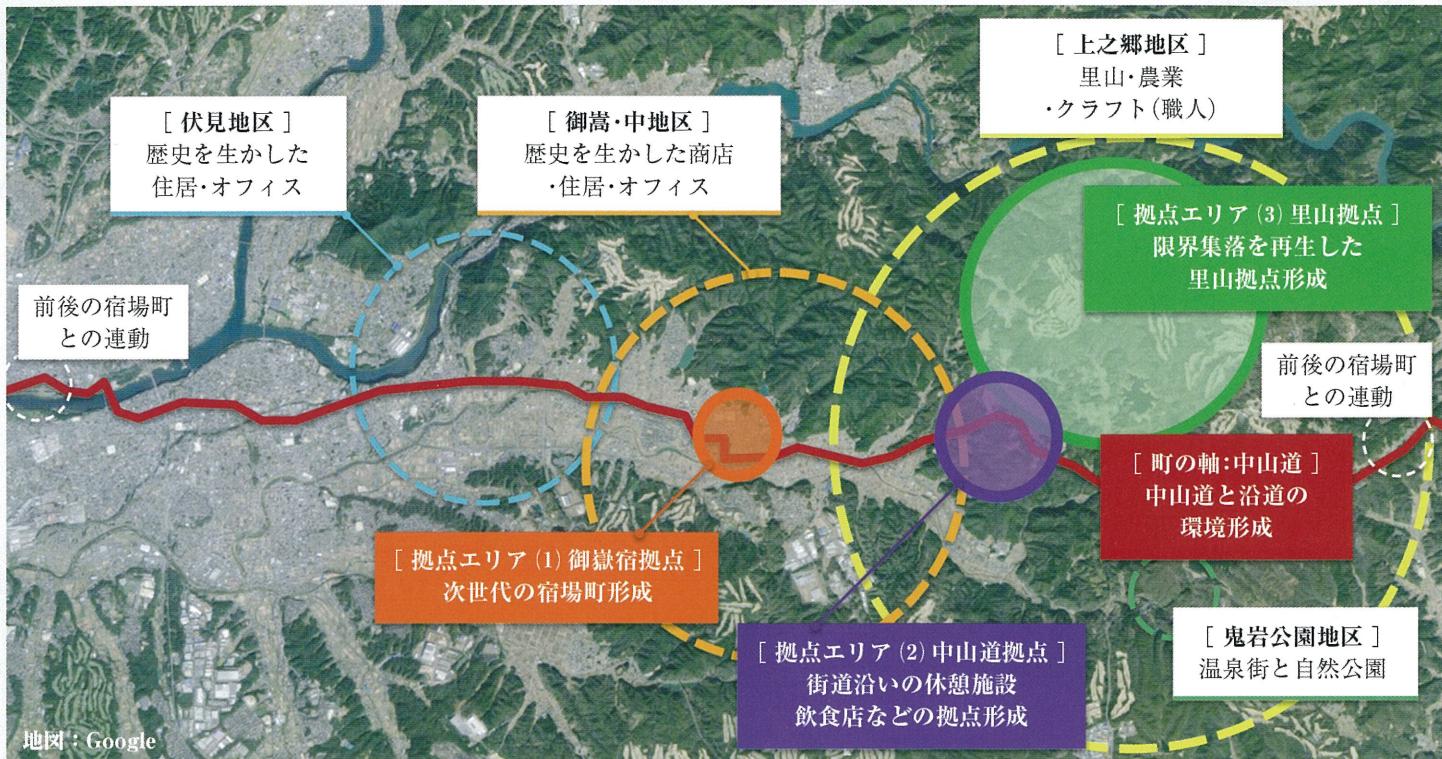
日本の 観光市場の状況

- 国内観光客数は減少傾向。外国人観光客数の伸び率が急増。今後の可能性が大きい。
- 外国人観光客は滞在日数も消費額も国内観光客より大きく、歴史体験に興味を持っている。

御嵩町の課題

- 人口が減少。
- 製造業に次ぐ、未来を作る新しい産業と歴史文化に基づいた暮らしの向上の必要性。
- 地域資源が分散しており、観光地としての魅力やストーリーが明確でない。特に中山道や御嶽宿などは、さらなる魅力創出が求められている。
- 若手人材(プレイヤー)の不足。
- 地域資源をつなぐ地域内交通手段の不足。
- 町民(特に若者)が町内で過ごすカフェなどの飲食店や交流の場所が不足。

9. エリア施策 / ゾーニング



町 の 軸

御嵩町の観光・歴史文化・暮らしを支える骨格となる資源 = 中山道

地 区

町内をエリア分けし、地区ごとの特徴と目指す方向性を定義

拠点エリア

観光計画の実現に向けて拠点となる、優先的に整備する重点エリア

10. 事業主体 / ビーグル

日本一、中山道に身を染められる「宿場町」を実現する事業主体(ビーグル)が必要です

